

東京モス工場の大罷業態様

四月

昭和四年四月三日該工場に於て深夜業廃止を前にして労働条件の問題を中心として四月三日工場閉鎖を断行大罷業開始は東京・金町・西支部の姉妹工場下あるの下の各姉妹組合大幹部は斗争の決意を表明し、資金等を以て協力態様。四月十六日には紡績労働者と大衆党主催の急進演説会を本所公会堂に開催。

合同紡神崎工場争争(北沢第一支部)

四月

原因……四月二十一日、日本紡績祝願第一支部は従業員大会を開催
(1)解雇手当の制定(2)請負単價の五分値上(3)女子手日給値上(三升)
(4)系給均等値上(5)食事の改善(6)病院の改善(7)寄宿舎の改善
解決……四月二十四日嘆願書提出。交渉の結果(1)(2)の大半を貫徹解決。

相本染工場争争(城東第二支部)

六月

六月十日仕事の間歇を名として従業員に土方仕事を強制したの下の交渉要求をこたへ貫徹。
六月十七日石橋氏の組合加入に對し工場主は辞職を勧告したの下の反對運動を起し工場主は工場閉鎖を以つて脅嚇したの下の同日午右支部従業員八十余名大衆党支部に引上げたの下の工場主は爾る同日夕無条件復職下勝利解決。

洋モス争争

(洋モス従業員組合)

六月

原因……組合の圧迫(清野組合長大森光夫の「幹部論書」と深夜業廃止の労働条件討議。
六月十七日十ヶ条の嘆願書提出。
解決……長尾組々頭長尾善作氏の調停にて大勝利解決(解決事項労働大衆第三巻第四号参照)

合同毛織今津工場争争(今津支部)

六月

原因……深夜業廃止による労働条件低下
六月二十四日嘆願書提出。尾業に入る。会社は二十七日組合幹部五名解雇。
解決……六月二十四日停園手当。退職手当(規定の外金一封支給)を支給し此の後組合員に對して一切の圧迫を加へざること。

深夜業廃止に関する京モス専戸・金町西支部の交渉戦

(専戸・金町西支部)

六月

原因……東京モスリン会社は六月半深夜業廃止の具体案を発表したるに之を右西支部は五ヶ條の嘆願を提出交渉戦に入る。
解決……交渉の結果六月二十四日地詔条件にて有利解決。
(1)定期支給を更張すること。(2)日曜日出勤は午後二時より午前五時に繰り上げること。(3)請負単價一割値上を一割五分値上にする事。及び深夜業手当四分の支給は深夜業廃止後の更張を見るまで保留。(4)五時間運轉労働中十五分の休憩を與ふることは今後全口約の問題として獲得に徹す。